

佐野短期大学シラバス2014

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育実習事前事後指導 Pre-post guidance and teaching practice		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(教職課程必修(幼稚園教諭二種))	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職課程必修科目、保育士養成課程必修科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職課程科目、保育士養成課程科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
高橋登美子	講義棟3階	火・水・金(授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
幼稚園での教育実習に臨むにあたり「幼稚園の役割と機能」「幼稚園教育の性格と特色の理解」などの理論に触れながら、保育の場における指導に関する実践力を身に付けて行く。目的意識を持って演習活動に取り組み、実習に向けての準備を自らすすめていく。				
授業の目標				
①幼稚園教育要領に基づいた保育指導技術を実践する方法を考えることができるようにする。 ②保育内容の5領域を意識した指導方法を考え、対象年齢に適応した立案ができるようにする。 ③多様な幼児教育の実際を知り、幼児教育者としての役割を考えた責任ある行動ができるようにする。				
授業の方法				
各自が、それぞれの実習園の特徴を捉えた「実習計画」を立てて計画的に事前準備を行う。実習に取り組むための演習活動の準備を進んで行う。実習後はひとりひとり事後指導を受け、自分の実習をふりかえり、今後の展望に向けた課題に気付く。				
学習の成果(学習成果)				
①幼稚園教育要領にある保育の内容と指導の留意点を意識した保育活動を展開・実践することができる。 ②理論を基に子ども理解に努め、実践の場において3歳、4歳、5歳、各年齢の発達段階を踏まえた指導計画を立てることができる。 ③実習後は、幼児教育の重要性と今日的課題と向き合いながら保護者支援も視野に入れた学びを深めることで、幼児教育者としてのあり方とその存在の意味を理解した活動ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(シラバスの説明、授業の進め方、実習内容の確認と実習計画について、補講と欠席の対応について)			
第2回目	教職課程としての専門性を踏まえた教育実習の意義を理解する(実習園の確認)			
第3回目	幼稚園教育要領の内容を意識した「実習計画」を作成する			
第4回目	「実習計画」を基に演習活動と事前準備に取り組む(指導案作成を開始する)			
第5回目	実習オリエンテーションの書類準備と演習の事前準備を確認(指導案作成の確認)			
第6回目	教材研究を重視した保育活動の「製作」に取り組む(指導案作成の修正)			

第7回目	教材研究を重視した保育活動の「折り紙手順図」に取り組む(指導案作成の再構成)		
第8回目	幼児教育の場としての「指導方法」を考える(指導案にかかわる保育の発展を考案)		
第9回目	保育活動の立案の見直しと評価・再構成・保育の発展について考える		
第10回目	モンテッソーリの幼児教育と向き合い、教具の扱いを知る		
第11回目	実習での保育実践を基に、指導案の再構成を確立する		
第12回目	年間指導計画、月案、週案、日案、指導案、それぞれの特徴を確認		
第13回目	年間指導計画、月案、週案、日案、指導案、それぞれの特徴を確認し、グループワークで各計画を考案する		
第14回目	「自分便り」の提出と今後の課題の確認(提出に関しては授業内で指示する)		
第15回目	実習のふりかえりと自己評価、日誌の内容を省察(事後指導を受ける)		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
	授業参加態度	30%	実習園の教育方針に適応した実習計画と保育計画を立案する努力がみられる。意欲的・計画的に演習活動に取り組んでいる。
	レポート		
	調査報告書	10%	実習の反省を受け止めた自己評価ができています。
	小テスト		
	試験	30%	授業14回目に実習後の「自分便り」としての報告書と「指導計画」を提出する。(指示された必要事項が書かれていること、提出日を厳守すること)
	発表内容(態度含む)	30%	演習課題「折り紙手順図」作成の、対象年齢や内容が適切である。
	その他		
教科書と参考図書			
幼稚園実習の手引き：佐野短期大学 幼稚園教育要領 必要な書籍や参考図書については、授業内で適宜示す。			
履修上の留意点・ルール			
授業への参加態度は、保育学生として相応しいものを求める(服装、言葉遣いを含む)。実習による追加授業や補講の時期によっては、授業の順番が変更となる。遅刻・早退の3回分は欠席1回として扱う。多欠席や課題の未提出等が顕著な場合、続けて3回以上の欠席の場合は面談を行い実習延期も考える。			